

山岳友の会会報

2016年11月 第23号



第26回現地研修会 乳頭温泉鶴の湯の前にて 撮影：荻野秀夫

もくじ

2016 キッズキャンプ	報告 小林 久雄	2
第26回現地研修会『高山植物の宝庫・秋田駒ヶ岳と乳頭温泉』		
	報告その1 田下 逸男	2
	報告その2 渡邊 修	3
第27回現地研修会『カクネ里大雪溪（氷河）を遠望する』		
	報告 小林 久雄	16

2016 信州大学山岳友の会 「上高地・乗鞍 キッズ・キャンプ」報告

参加者 26名
(6年:6名 5年:6名 4年:14名 男:9名 女:17名)
穂高・槍・常念・蝶 の4班構成
スタッフ 11名

天候が心配されましたが、当日の朝曇りの中を上高地へ
(日差しも出て何とか晴れ)

4日(1日目)

沢渡 ナショナル・パークゲートでトイレ休憩後に上高地帝国ホテル前で下車。

ウェストン碑前まで移動、広場で班分けして小梨平へ散策、班ごとにお昼。

ビジターセンター見学後にインフォメーションに戻り、奥原所長より上高地の講話。

2時にバスにて乗鞍へ移動。

男女別に部屋に入り寝具などの整理、中庭で工作(松田さんより鉛筆型ペンダント作成)

班ごとにBBQ 食材準備とカレーの食材準備、5時よりBBQ開始。

おにぎり と BBQ で夕食、食器類の後片付けしてキャンプファイヤー 点火7時。

立花さんよりゲームなどしながら鎮火後ナイトハイク(奥原)
9時半 就寝。

スタッフはそこからようやく ビール反省会 (レギュラー缶24缶のみ)



1時より絵日記作成2時まで。

スイカ割りをして、解散式の後、3時帰宅のバスに乗車して随時解散。



5日(2日目)

6時起床 ラジオ体操(細萱) 6時半 朝食
7時45分 乗鞍に向けて出発。

県境富士見岳付近で下車。バスに疲れたのか...トイレ希望者多く、畳平にてトイレ。

大黒岳登山後に富士見岳に登山、摩利支天希望者と肩の小屋トイレ希望者に分かれて、肩の小屋経由で雪溪口に下山。11時半バスにて下山。

カレーライスの昼食後に部屋の片付けをして、

小林 久雄

第26回現地研修会『高山植物の宝庫・秋田駒ヶ岳と乳頭温泉』報告その1

いやー 良かったですね。

初日650km 移動で着いた乳頭温泉「あ、前 TV でみたことある」、佇まいといい、温泉と

いい大満足でした。

翌30日は迷走台風10号直撃コースに恵まれ？風雨の中の登山となりましたが、阿弥陀池の白波がちぎれて飛ぶのを見て、体も飛びそうでした。女性チームは、早目に引き上げて正解でしたね。

ま、私は山屋でないんで、山頂へ行かなくてもピストン3回目の車が来るまでに、24番カーブミラーまで歩いたのでOKでした。



初日、2日目とも、宿の夕食がおいしく量が多くてお酒が沢山呑めずにやや残念でした。

帰途のクラゲ水族館は、老人クラブ券で安い料金でしたが、幻想的かつ優雅に遊ぶ姿に見いてしまいました。温泉マークから逆さ温泉マークかい？とも思ってしまいました。

松本に帰着してからの反省会は、反省のし過ぎでしょうね。

皆様にお世話になり楽しい3日間を過ごさせていただきました。

追加参加した 田下 逸男

第26回現地研修会「高山植物の宝庫・秋田駒ヶ岳と乳頭温泉」 報告2

1日目：8月29日(月)天気：晴れ

例年になく暑かったお盆も終わり、爽やかな信州でも日中は相変わらず厳しい残暑が続いています。それでも漸く朝晩は凌ぎ易くなってきた8月末の29日から31日までの3日間、今年度のメインイベントとなる「高山植物の宝庫・秋田駒ヶ岳と乳頭温泉」を巡る現地研修会が山口会長以下、総勢22名が参加し盛大に開催されました。

新聞、テレビ等では今年最強クラスで非常に強い勢力(中心気圧 965hpa、中心付近の最大風速 35m)を保ったまま北上を続ける大型の迷走台風10号(LIONROCK)が観測史上(1951年以來)初となる東北地方太平洋側への直接上陸との予報が連日報道されていました。そんな中、我が「友の会」ご一行様は九分九厘上陸するであろう台風10号と同様、一路東北は秋田県仙北市田沢湖田沢先達沢**国有林50**(後に知ったのですが、実はあの場所は紛れもなく国有林であり貸付地だったのです。)**「秘湯 乳頭温泉 鶴の湯」**へ向けて予定時刻の6時に松本市の信州大学を後にしました。

JR 松本駅アルプス口で9名をピックアップし、高速へ入るのも束の間、友の会恒例となっています車内での大宴会が始まりました。今回は、なあっ！なあんと言うことでしょうか！サロンの中央テーブルに鎮座するのは「サーバー様(生ビールを注ぐ器機)」ではありませんか。この会のためにジャイアンが缶ビールなどに貼られている応募シールをコツコツと一生懸命貯めて入手してくれたとのこと。なんと有難い限りで、目頭が熱くなります。さて、このサーバー単3電池を使用するのですが、これがまたなんと優れもので500mmの缶ビールのプルトップを開けて本体に格納し、ビニールパイプを缶ビールに挿入させれば準備



完了。後はコップを注ぎ口に当てて上部についているレバーを手前に倒せばビールが注がれ、反対側に押すと泡が注がれます。缶ビールが見事に生ビールに早変わりするのです。きめ細かなクリーミーな泡がビールの旨みをコーティングするので絶品なのです。誰がなんと言おうとも紛れも無く美味しい本物の生ビールなのです。(どのメーカーの500ml缶ビールも装着でき、最後の一滴まで上手く注がれるのです。) 皆さん是非とも一度はご賞味あれ!

飲み物はメインイベントだけにビール、日本酒、ワイン(赤・白)、焼酎にウィスキーと何時になく豪華な種類が多く量も充分です。勿論、お酒を余り飲まれない方にも配慮し、ソフトドリンクも準備され申し分ありません。この時点で事務局の今回の現地研修会への意気込みがひしひしと伝わって来たのは言うまでもありません。口取りもフーミン(竹原さん)手作りの美味しい漬物をはじめ乾物、チョコ、パン、スナツ菓子等が所狭しとテーブルに並べられました。準備万端! 弥が上にも盛り上がらない筈はありません。

車内で宴会が盛り上がる中、2名の朝日観光バスのベテランドライバーの安全運転の下、バスは秋田県の目的地である、「秘湯 乳頭温泉 鶴の湯」に向け直走ります。途中「小布施ハイウェイオアシス」で堀内さん、その後山形県の「道の駅:鳥海ふらっと」で梶澤さんをピックアップしてから昼食となりました。



梶澤さんも4月の人事異動で長野市から、はるばる山形県鶴岡市へ赴任しているので久しぶりの再会に話も弾み、飲酒の加速度は更に増しました。後は、JR 田沢湖駅で大江さんが合流すれば全員揃います。(毎回、遠路からご参加される大江さん(岡山県)、松尾さん(神奈川県)には頭が下がります。本当に遠路からのご参加お疲れ様です。と同時に感謝、感謝です。)車内は大宴会で盛り上がる中、漸く田沢湖駅に到着しました。岡山発6時3分の東海道・山陽新幹線「こだま」に乗り東京へ。東京から秋田新



幹線「こまち」に乗り換え田沢湖駅に、お昼過ぎには既に到着され、待つこと2～3時間！まだかまだかと首を長くして待ちくたびれているであろうベンチに腰掛ている大江さんを発見！（ご本人曰く、「田沢湖の散策等で結構楽しみながら時間を潰しとったんよ～！だからなあ～、そんなに長くは待つて

はおらんかったんよ～！」と言うことでした。既にできあがっている私達にお気遣い頂き有難うございました。）挨拶もそこそこに直にバスに乗り、明日八合目小屋までピストン輸送を行うレンタカー（8名乗りワゴン車）をチャーターし、「アルパこまくさ」へと向かいました。



「アルパこまくさ」は食事処、源泉かけ流しの田沢湖を一望できる露天風呂を備えた「自然温泉ふれあい館」（第三セクター）、「駒ヶ岳火山防災ステーション」・「駒ヶ岳情報センター」（国土交通省）からなる複合型の施設で、大型車両の駐車場もあります。

「秘湯 乳頭温泉 鶴の湯」へ行くには、道路の幅員が狭く、また道路沿いの立木の枝等が障害になり朝日観光の大型バスでは直接行く事ができないため、田沢湖駅でチャーターしたレンタカー（荻野さん運転）と鶴の湯のマイクロバスに乗り換えて分乗し約10分程で予定時刻どおりに無事、本日の宿泊地である「秘湯 乳頭温泉 鶴の湯」に到着しました。バスから降りると、そこはまるで現代からタイムスリップしたかのような佇まい。茅葺の建物と薄が茂り、どっしりと構える入り口の門、水車小屋などノスタルジックで、今にも向こうから丁髷姿で刀を差した侍や、簪を挿した着物姿の綺麗な秋田美人のお姉さんが歩いて来そうな感じがします。流石！大自然に抱かれ、開湯380余年の歴史が醸し出す、秘湯の味わいそのものです。



早速、宿のご主人から館内の説明を受け、夕食時間を聞いてから「友の会」荻野オフィシャルカメラマンにより、門の前での記念撮影となりました。

6時30分からの夕食まではまだたっぷり時間が有ります。各自部屋割りされた部屋に荷物を置いて館内6つの温泉（①混浴露天風呂：鶴の湯②中の湯③白湯④黒湯⑤滝の湯⑥内風呂）をしっかり堪能することにして温泉巡りとなりました。

宿の客室は、本陣、1号館、2号館、3号館、新本陣、東本陣で構成されています。本陣はその昔、藩主の警護の士が詰めていたという黒を基調とした茅葺の長屋で、三百五十年前の佇まいそのままの姿で保存され、勿論、現在も使用されています。各室に囲炉裏がきられ、深山の古い湯宿の趣を醸し出しています。ご主人の話では、以前は二棟あったそうですが豪雪で潰されてしまったそうです。ですから積雪量はかなりの量と容易に推測できます。現在は、残りの一棟を湯治のお客様に使用してもらっているそうです。

私達の客室は、女性陣が新本陣、男性陣は1号館となりました。女性陣の宿泊する新本陣は藩政期、御本陣があったという所に昭和62年に新築されたそうです。翌朝、拝見させ

てもらいましたが部屋は新しく広く、秋田杉、ヒバ、ヒノキがふんだんに使用されている木造の建物で往時の雰囲気而今に再現させています。勿論、各部屋にはトイレも完備されていました。男性陣の1号館の客室とは随分違うし、やっぱり、お値段も違うんだらうなあ～！

秘境故、部屋にはテレビが無いので台風情報もスマートフォンが頼りです。たまには俗塵を忘れるのも乙なものです。明日の秋田駒ヶ岳登山は天候次第ですからやはり気になります。上空を見上げれば今のところ雨は降っていませんが、風は強く雲の流れはとても速い訳でして…！否が応でも明日の天気と台風が気になります。さて、ここで温泉の紹介です。内風呂以外は宿泊場所から湯の沢に架かる橋を渡り離れになります。混浴の露天風呂「鶴の湯」の泉質は含硫黄-ナトリウム-塩化物、炭酸水素塩泉(硫化水素型)、色は乳白色で場所によっては足元の砂利の間から多少熱めの温泉が噴出しています。①浴用の適応症はきり傷、やけど、慢性皮膚病、慢性婦人病、糖尿病、虚弱児童等…②引用の適応症は慢性消火器病、糖尿病、痛風、肝臓病、便秘、慢性便秘等…何れにせよ、入浴してよし、飲用してよしと万病に効くようなので大変有難くなってしまいます。混浴と言っても流石に女性は入浴していませんでした。(翌朝、年齢は定かではありませんが女性の方が入浴されていたとの

目撃情報がありました。…と言うことは熊〇さんは見られたのですよね！なんとも羨ましいです！)開放感があって程良い湯加減なので長時間入っていられます。冬は3~4mの積雪があるとのことです。その時期の入浴も風情があって味わい深いことでしょう！時間が許せば厳冬の乳頭温泉を楽しむのもお勧めです。(ただし、宿を予約するのは非常に困難を極めますので、半年前の予約受け付け開始と同時に申し込まなければなりません。電



話が殺到し中々繋がりませんので。特に本陣は人気が高く倍率が高いとのことです。)

温泉を堪能すると部屋に戻り夕食までの食前酒です。流石に温泉上がりのまた、活力の源でもある泡のပါတル(ビール):熊谷さん命名は格別です。ああ～旨い！もっと飲みたい気持ちを抑え、夕食に支障の出ない程度に美味しく頂きました。

さて、いよいよ夕食です。席は何時も同じメンバーが集まってしまうので、今回は大勢の仲間とコミュニケーションが図られる様にとの配慮の下、くじ引きとなりました。既に囲炉裏では串に刺された岩魚の塩焼きが今か今かと出番を待っています。席が決まりいよいよ宴



の始まりです。

ここ「秘湯 乳頭温泉 鶴の湯」は俗塵を忘れる天与の法悦郷！電気は来ているものの部屋にはテレビも無い宿、料理はやはり精進料理がメインかと思いきや、先ほどから囲炉裏



で出番を待っていた岩魚の塩焼きに岩魚のお造り、みず(ウワバミソウ)、ぜんまい、舞茸などの山菜の煮物などが各種、名物の山の芋鍋、山の芋ときりたんぽ風の糲薯、お新香(いぶりがっこ、いぶりにんじん、ミズナ)などお膳の上は料理で一杯、脇にはこの膳に野菜サラダ、デザート(果肉がオレンジ色の高級メロン)が用意され、見ただけで全て食べきれぬ自信はありません。

山口会長の挨拶、今回最年長者の中野さんの乾杯で宴が始まりました。

今日の無事に感謝し、明日駒ヶ岳登山ができることを祈りつつ、自己紹介をしながら楽しい宴会が続きました。皆さん車内で十分飲み続けたせいか、思う様にアルコールが進まず、メのお蕎麦を食してお開きとなりました。ご飯もありましたが流石にお腹一杯で食べられませんでした。ご飯を食べられた人もいるのかなあ～？



部屋に戻ると再び温泉に浸かり風呂上りの泡のバイタルを一杯！ああ～！やっぱり旨い！明日の天気と台風が気になりますが、今のところ雨は降っていません。「明日は明日の風が吹く！何とかなるさあ～！」何時もより早目の10時前には就寝となりました。

2日目：8月30日(火)天気：曇り時々雨のち大雨

窓を開け網戸で寝たためか若干、湯ノ沢の川の音が気になりましたが、寝るに悩まされることなく何時も通り5時起床。昨夜寝る前に温泉に入り、鋭気を養ったので熟睡でき頗る快調！アルコールもしっかり抜けている。早速、空を見るも曇天。幸いにも雨は降っていない。それでも雲は低く流れは昨日同様、非常に速い。雨が振り出すのは時間の問題か？「でもこの様子なら、今日の秋田駒ヶ岳登山は何とか登れそうだ！恐らく午前中は何とか持つだろう！そうさ！絶対大丈夫だ！」折角、遠路この地まで来て登れないのは余りにも残念だ！とは言え、行動は慎重にかつ、物理的、客観的にそして総合的に判断しなければ命取りになる。いくら



1,637m と低い山でまた、道程が短くとも(コースタイム 1 時間 20 分)決して山を侮っていけない。常に歴史はそれを証明している。しかし、この会には「遭難対策救助隊隊長」、「南極観測越冬隊 2 回の経験者」、「海外の著名な山を経験されている者」など強者揃いで頼もしくもある。逆にこの状況での遭難や事故は絶対許されない。もしもそうなった時の事を考えると…新聞、テレビ等で大

きく報道される事は間違いない！「大丈夫だ！きっと登れる！間違いない！」何度も何度も言い聞かせる。

さてと、気がかりの台風10号はと…。スマートフォンでニュース気象情報を見るとやはりトップニュースで取り上げている。ややスピードを上げながらも観測史上初となる東北地方太平洋側の宮城・岩手県境に夕方6時頃には上陸との予報！とても心配だ！映像を見ると依然として風は強く、激しい雨で全く勢力が衰えていない。このまま上陸すれば東北地方は甚大な被害が予想される。今日、8月30日は東日本大震災から 2,000 日目の節目の日だ！これも正に「ご縁だ！」何とか午前中はもって欲しい！と祈りながらも…。

さあ～てと！温泉へ浸かろう！心の奥底では、女性が入浴している状況も少々期待しながら混浴露天風呂「鶴の湯」へ向かう。あれっ！なんと…！あんなに大勢の宿泊客、湯治客がいるにも拘わらず入浴者が誰もいない。踵を返し急いで部屋に戻り、カメラ、スマートフォンを手に取り走って露天風呂へ。人の気配を気にしながらも急いで露天風呂の撮影を開始。昨日、撮影したかったのだが、「撮影禁止」の表示看板が！その上、他のお客さんが入浴しており残念ながら撮影を断念。しかし会報に掲載するには絶対にこの「露天風呂の写真は必須だ！」そうなので



す！この風景を参加できなかった皆さんには是非とも写真でお見せし、感動を与える義務がレポーターの小官にはあるのです。露天風呂「鶴の湯」、滝の湯、中の湯何枚か撮影している間に人の声が！…「これはまずい！」と思い、カメラとスマートフォンを浴衣の中に隠そうとした時、なんと来たのは…！我が「友の会」のメンバーではありませんか。これはまたまたなんてラッキーだ！「今日は朝からツイているぞ！」ラッキーが重なり、混浴露天風呂「鶴の湯」は「友の会」の貸切風呂となりました。後はご想像の通り「友の会」ご一行様の記念撮影現場となり、お蔭様で沢山の良い写真が撮影できました。ご主人、撮影禁止場所での撮影！申し訳有りませんでした。でも少なからず「鶴の湯」の宣伝の一助にはなりますし、何よりも他のお客さんが撮影されていないのがせめてもの救いです。平に平にご容赦の程！

さて、風呂から上がればまたまた、泡のバイタルで一杯です。3時間後には登山が待っていますので、沢山飲む訳にはいきませんので食前酒といった程度で喉を潤しました。



外を見ると6時30分位までは降っていなかった雨が急に音をたてて降り出してきました。ちょっとまずいな～！6時50分朝食、流石にこの場で飲んでいる方はいな様でした。（あっ！一人いました。山へ登らない秋さんが…！）



朝食後に降圧剤、中性脂肪を下げる薬を服用、超軽量速乾性の下着を纏い、下腿にはウォーミングアップジェルを入念に施し、高性能コンプレッションタイツを履いて身支度を整え準備万端！（それでも意に反して睡眠不足、深酒時には痙攣が起きます。）レンタカーと宿のマイクロバスに分乗し、7時30分、一度は行ってみたい温泉「秘湯 乳頭温泉 鶴の湯」を後にし朝日観光バスが待つ「アルパこまくさ」の駐車場へ